

佐賀市 14 歴史探訪

じょうない たぶせがわ いしがき 城内の多布施川石垣

現在、佐賀城の石垣は、天守台、鯨の門周辺や城堀護岸、多布施川護岸に見ることができます。慶長年間に佐賀城ができたころには、天守台、鯨の門周辺や北の御門付近の多布施川にしか石垣は造られていませんでした。城堀の石垣護岸が最初に築かれたのは、記録によると寛政年間で、城堀全域の石垣護岸が完成するには、だいぶ時間を要したようです。

多布施川の護岸も城堀と同じようにしてだんだんと整備されていったものと考えられます。城内の多布施川流域を散策すると、色々な石垣護岸があることに気づきます。赤い石で積み上げているところや、黒っぽい石、コンクリート製のもの、新素材を用いているものなど多種多様あります。

これらの中では、赤石護岸が最も古いものと考えられますが、赤石が加工しやすい反面、耐久性に問題があることから、積み替えが必要になると別の石材で再構築されてしまっているようです。耐久性に問題があるとはいえ、赤石護岸が残っている箇所は風格や歴史の重みさえも感じられます。

近年、公共事業として実施される石垣護岸の積み替えが行われる場合、この歴史的景観に配慮し、再利用できる赤石は、荷重がかからない部分に利用するようになってきました。水路護岸の改良は、今後も歴史的景観を考えながら実施していきたいものですね。

一口メモ

多布施川の清流は、城下町佐賀のライフラインでした。だから、藩の法令にも清流の保全、水路の埋め立て、新設水路の建設などについては強い規制がありました。現在の私たちにも共通する事柄のようですね。



▲布積み技法の石垣[赤石を使用]
(佐賀県職員互助会館東側付近)



▲みだれ積み技法の石垣[赤石を使用](同上)



▲みだれ積み技法の石垣(佐賀西高等学校東側付近)



▲改修された石垣護岸。一部に「赤石」が使われている
(県庁南側)